

友の会通信

2006
Vol.
16

～群馬県立自然史博物館友の会～

— 博物館等視察研修会 —

～上野動物園・国立科学博物館で
充実した一日を～

11月19日、小雨まじりの肌寒い日でしたが、総勢26名参加。日本最古の上野動物園と国立で最新の科学技術の成果に基づいた科学博物館を見学。楽しく充実した時間を過ごしました。

上野動物園には動物以外にも五重塔など文化遺産も多く、液り鳥の飛来地、繁殖地としても有名な不忍池もあります。また、科学博物館の多様な展示物やボランティアの活動など、じっくり触れてみたい物が多く、再び訪れたいと思いました。

参加者の声
sankasha no koe

■動物園は30年ぶりの「オリの中に閉じこめられている動物を見る」のとは違う環境になった動物園でした。

特に夜の森の動物コーナーで、「マメジカ」、「飛び交うコウモリ」の姿はびっくりでした。

徳江 紀 (会員番号18-074)

■動物園のガイドツアーに参加した。テーマを「日本の動物」にしほったものですが、ふだん気づかない動物たちの習性を知ることができ、おもしろかった。ニホンザル山での一年目の子ザル、二年、三年目の子ザルの成長の様子やボスザルという言葉は最近使わないとのこと。単にケンカに強いというだけで、特に役割がないからだそうです。その他、カモヤリス、クマなどの話も参考になった。

柚木 郁 (会員番号18-565)

■動物園では、エサの時間帯でゾウガメが食べているのが見られました。博物館では、海の生物の展示が楽しく、興味を持ちました。

大塚 紀代 (会員番号18-603)

■新館の方は、中に入ってただ驚くばかりだった。階ごとに内装が独特で、自然史博物館とは違った展示もされていて、初めて知ったこともあった。ボランティアがたくさん活躍していて、見習わないと思った。

大塚 梢 (会員番号18-582)

■エジプトの昔のことがあって、おもしろかったです。モノレールに初めて乗って楽しかったです。

野村 優紀 (会員番号18-223)

■科博に2時間あてたが、時間が足りなかった。

今井 幸三 (会員番号18-019)

■我が家の場合、子どもが小さい(幼稚園年長児)ため、出かける際はまず第一に子どもが楽しめること、また子どもが迷惑をかけずに参加できることが重要なのですが、今回の内容はまさにうってつけでした。特に科博の2・3階に子どもがはまっていました。

今井 幸 (会員番号18-120)

■ペンギンの寝ているところがおもしろかった。ペンギンの泳いでいるところがおもしろかった。

今井 理貴 (会員番号18-121)

■自然史博物館友の会の視察研修に参加することができて、大変うれしかったです。国立科学博物館と上野動物園を見学しましたが、いろいろ勉強になりました。こういう視察研修ができるのも「友の会」に入っているからこそだと思います。私は、国立科学博物館で教育ボランティアの方の案内で、「地球環境の変動と生物の進化等」の話を展示物を見ながら勉強させていただきました。毎日忙しく仕事に追われていますが、こういう楽しい日になる1日が過ごせてよかったです。

下 幸夫 (会員番号18-122)



友の会フィールド活動「地層と化石の観察会」

日時:平成18年10月29日(日) 場所:高崎市寺尾町・雁行川の露頭(新生代中新世)



今年度2回目のフィールド活動が雁行川で行われました。「太古のロマンを探してみませんか」の言葉に誘われ、24名が参加しました。日陰となった川岸は冷気に包まれ、しっとりとした水気を含んだ美しい地層が眼前に広がる所。足下からは清流の音。そんな中で、今回の講師・野村正弘学芸員の語りに耳を傾けていると、この地層が堆積した時代・環境へと知らぬ間にいざなわれて行くのを感じます。木の葉や貝化石を含む母岩にハンマーを振るう参加者の姿は、まさに研究者そのものでした。化石はそれだけでも魅力的ですが、そこに隠された太古からのメッセージを読み解く研究者の目があれば、その魅力は倍増します。そして、確かな記録を添えて大切に保管したいという気持ちにつながるのですね。



参加者の声 sankasha no koe



■小1の子どもと一緒に参加させていただきました。子どもは、貝の化石がとれなくて残念がっていましたが、葉っぱの化石を会員の方からいただいてとても喜んでいました。ありがとうございました。

鳥羽千太郎(会員番号18-014)

■葉っぱの化石をもらってうれしかった。

鳥羽 直樹(会員番号18-221)

■43年間生きてきて、初めての経験でした。とても勉強になりました。

浦野 順司(会員番号18-087)

■友の会の入会目的であった「化石発掘」に家族で参加でき、とても貴重な体験をさせていただきました。現地へ赴き、実際にハンマー片手に化石を発掘してみると、なんと大変な作業かと思いました。また機会があれば参加させていただきたいです。この度は、大変お世話になりました。

浦野有紀子(会員番号18-090)

■はくは、発掘は2回目だったけど、1回目やった時よりくわしく教えてもらったので、とてもよく分かりました。高崎市の地層では、解説してくれた人が、植物の化石を見つけてすごいなあと思いました。吉井町の地層では、貝の化石がいっぱいとれて、とてもうれしかったです。そして、植物の化石2個、貝の化石1個をもらって、とてもうれしいです。ありがとうございました。

浦野 晃一(会員番号18-089)

■わたしは、初めてでしたが、化石やいろいろなことを教えてくれてどうもありがとうございました。とてもうれしかったです。

浦野 真衣(会員番号18-091)

■初めての参加でしたが、注意事項をはじめ、上層が新しいとは言えないとか、原市層はどろっぽく、板鼻層にはれきがあるなど、野村学芸員の説明が分かりやすく、楽しい観察会だったので、次回も参加してみたいくなりました。

横田 昇(会員番号18-566)

■今年はスゴイ掘り出し物に会うことができませんでしたが、石の中から何が出てくるかと思うワクワク感は子どもようになりますね。

岡野 宏巳(会員番号18-111)

■今まではただほっていただけだったけど、観察会に参加してからは、地層の見方が変わった。

岡野 峻士(会員番号18-114)



■楽しかった。化石が掘れてよかった。

岡野 まさと(会員番号18-115)

■中学生の時に化石を採集したのを思い出しました。今でも大切に保管しています。息子もいろいろなことを体験させ、多くの感動を与えてあげたい。この観察会はよい機会でした。

今井 誠司(会員番号18-042)

■待ちに待った「地層と化石の観察会」。「何かものすごい大発見がありますように」と思って参加した

私の頭の中には、「地層」と「観察会」という言葉はもはやなく、現地に着き、地層についての講義が始まってからやっと、(あ、そうだ。化石の発掘会ではなかったのだ…)と、興奮していた自分が冷静になった。化石には地層との密接な関係があること、そしてその観察がとても大切であり、知識を要することを学び、ただ掘りゃいいんだという思いがやたらに掘りたいぞという考え方に変わった。とにかく、何も分からなかった私にとって1つ世界が広がったような観察会だった。

千明 英子(会員番号18-569)

友の会会員からのおたより



～あれ、こんなところに鳥の巣が～

みなさんは冬、葉の落ちた木に写真のような枝のかたまりがあるのを見たことはありませんか。写真は鳥の巣でキジバトのものです。これは私の職場のケヤキにあったもので、毎日この下を通っていたのにまったく気がつきませんでした。私の職場にはケヤキとサクラが植えられていますが、サクラにはヒヨドリの巣がありました。

落葉したサクラやケヤキなどの街路樹を下から見上げるとこのような鳥の巣を見かけることがあります。目立つのはキジバトが多くやや小さなものはヒヨドリです。巣の材料は枝がほとんどですが、ビニールテープやプラスチック片なども使われています。鳥はこのような巣を作るために枝などの材料をクチバシにくわえて、何十回も運ぶのです。ちょっとした枝のかたまりのような巣も、鳥にとって作るのはいへんなことのようにです。そしてせっかく作った巣も、冬のからつ風などで壊れてしまうので、毎年のように巣を作らなければならないのです。

みなさんも冬、鳥の巣探しをしてみたいはいかがでしょうか。あれ、こんなところに鳥の巣が、と驚くことがあるかもしれません。



清水孝頼(会員番号 18-534)

～ブナの花と実の不思議～

毎年、山野に通っていると色々なことがあります。2005年の5月、片品村にある花咲温泉に出かけた時のこと。当日は武尊牧場近くに車を止め車道をしばらく歩きましたが、所々で路面を覆うように小さなポンポリ状の物が落ちていました。3Kmほど車道を歩いて山道に入ったのですが天気もよく木々の芽吹きと新緑を楽しみながら温泉に着きました。わずかに残る雪と可憐な水芭蕉を楽しみ、その後、武尊田代の温泉をまわり帰路につききました。

家に帰って気になっていたポンポリ状の物を調べてみると、ブナの雄花であることが判りました。この年は、何年かに一度あると聞いていたブナの実の当たり年のようで、夏に行った奥利根では沢に突き出た枝先にブナの実がびっしりと付いていました。なぜ、ある年、一斉に多くの実を付けるのか？不思議でなりません。その実も秋には多くの動物たちの糧となったことなのでしょうが、翌年6月に山に行った時には一面緑に染めてブナの実が芽吹いていました。それも秋までにはその数が半減してしまったように思います。

今年芽吹いた何万、何十万の数のブナが一人前の大きな木に育つのは何本だろうか？そんなことを考えながら、この自然が豊かなまま残ってほしいと願いつつ、春になりまた山へ行ける日を楽しみにしています。



北爪二郎(会員番号 18-535)

イベント紹介



ボリネシアの島々に運ばれたブタ (撮影: 近森 正)

特別展「自然とのたたかい～人類は生き残るために何をしてきたか～」

会期: 2007年3月17日(土)～5月6日(日)
場所: 自然史博物館企画展示室

ヒトは食料を得るための道具や、衣服、火の利用といった文化を進化させ、地球上の様々な環境に適応し自然を利用してきました。我々が歩んできた道筋を紹介し、今後の自然との関係をさぐっていきます。

第27回企画展

「アイズイロ」氷河時代を生きた動物たち

会期: 2007年7月14日(土)～9月2日(日)
場所: 自然史博物館企画展示室

氷河時代は、生物の進化に大きな影響を及ぼしてきました。この企画展は、今から数十万年前、日本にナウマンゾウがいた頃の氷河時代に焦点をあて、生物と氷河時代との関わりを紹介します。

8月までの主なイベント

5 May

- ・友の会総会
- ・友の会講演会 (講師として長谷川善和館長を迎え、化石に関する話を予定しています。)

7 July

- ・自然観察会



New 出版物の紹介

特別展図録 「自然とのたたかい～人類は生き残るために何をしてきたか～」

販売開始 2007年3月17日(土)
予定販売価格: 一般 500円 会員 450円

会員みなさんの声をお寄せください

□会員の声

会の運営やご意見、紹介したい話、詩や短歌・散文など何でも結構です。長さも自由です。

□紹介したい写真

自然を対象にした写真に、撮影場所・日時・コメントを添えてください。

★受付期間はありません。いつでも結構です。「友の会通信」の資料として活用させていただきます。多くのみなさんからの投稿をお待ちしています。

『友の会』の更新手続きと新規入会手続きを

入会による特典

- ①博物館の入館無料
- ②博物館からの情報配布
- ③友の会行事等への参加
- ④ミュージアムショップの割引

年会費

- ①一般会員 — 3,000円
- ②高・大会員 — 2,000円
- ③小・中会員 — 1,000円
- ④家族会員 — 5,000円
- ⑤賛助会員 — 10,000円

★現会員の方は引き続き入会をお願いします。さらに、お知り合いの方々に新規入会をお薦めいただければ幸いです。

賛助会員

(平成18年9月～12月末現在)以下の法人の方に
ご賛助いただきました。ありがとうございます。

■富岡ロータリークラブ (1口)

博物館利用案内

- 開館時間 午前9時30分～午後5時
(ただし入館は午後4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)・年末年始
- 観覧料 一般500円 高校・大学生300円
※中学生以下・身体障害者手帳、療育手帳、または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料
企画展・特別展開催中は別料金

編集後記

昨年夏から秋の企画展「コアラ大陸オーストラリア・・・」の会場には多くの化石、現世の動物が展示され、その量と質には圧倒される思いでした。他大陸から隔離され、動物は独自の進化をたどる中で、他大陸と同じような形態の動物に進化することが不思議でした。昨年、そのオーストラリアは大干ばつとのこと。コアラたちが気になるこの頃です。 堀越武男(友の会通信編集委員)